

文化庁 2019 年度大学における文化芸術推進事業

芸術教育プログラムを活用した地域と芸術をつなぐアートマネジメント人材育成事業



万字線プロジェクト 2019

本プロジェクトは、地域文化資源の発掘・発信・活用に関して、企画立案、イベントの実施、プロモーションまで一貫して体験する新たなアートマネジメント人材育成プログラムです。

芸術・スポーツ文化学科が所在する岩見沢市及びその近郊は、かつて多くの炭鉱を抱え栄えた地域であり、また交通の要衝でもありましたが、現在は過疎化、高齢化が進む地域となっています。芸術によって地域をどのように活性化させることができるのか、魅力的な環境をどのように創作できるのかについて、理論と実践の両面から理解を深め、実践的な課題解決に取り組める人材の育成を図ります。それによって、地域における児童・生徒への芸術教育の担い手の育成に関わるプログラムを開発・実施することをねらいとしています。

(注)「万字線プロジェクト」の名称は、廃線となった鉄道路線「万字線」の名を引用した。万字線は、石狩炭田から産出される石炭輸送のため、1914年(大正3)に開業した23.8kmの路線で、沿線の美流渡(みると)や朝日炭鉱の石炭輸送にも活躍した。列車は、地域の中心地である岩見沢駅を起点とし、室蘭本線の志文駅から万字線に入線していた。志文駅・上志文駅・朝日駅は岩見沢市、美流渡駅・万字駅・万字炭山駅は栗沢町(現・岩見沢市)に立地した。

<概要>

1. タイトル：万字線プロジェクト／統一テーマ：地域と芸術をつなぐアートマネジメント

2. 期間：2019年7月～12月

- ◆オープニング企画「森の学校ミルトをつくろう」連続ワークショップ(全2回) 7月
- ◆プロジェクト実践 アーカイブコース・イベントコースの2コース開催 7月～8月
- ◆万字線プロジェクト公開フォーラム2019 12月開催 ※後日参加者を募集します。



3. プログラム詳細

◆オープニング企画「森の学校ミルトをつくろう」連続ワークショップ

タイトル：「森の学校ミルトをつくろう」-美流渡地区の廃校をアート・スポーツのラボスペースに！-

日時：

2019年7月13日(土) 前編

7月20日(土) 後編

13時00分～14時30分

(各日とも)

会場：

JR岩見沢駅舎内センターホール

有明交流プラザ2階・i-BOX前

定員：市民・学生 30人

内容：

万字線アートプロジェクトのねらい(宇田川)、「森の学校ミルト」構想とは(来嶋)(以上両日共通)、ゴーイング・コンサーンの重要性(前

万字線プロジェクト

森の学校ミルトをつくろう

2018年度、岩見沢美流渡小学校・中学校は閉校しました。生徒たちは小中あわせて18名という小さな学校でした。地域のみんなが学校を支え、お祭りや運動会が行われていました。学校がなくなるとは、子どもも親だけでなく、地域の人のよりどころがなくなることでもあります。では、今、地域にとってどんな場が「あれば」ドキドキ、ワクワクする場所、何か「生まれる」でしょうか。このプロジェクトでは、この小中学校を舞台にさまざまな「実験」も行っています。トライアル・アート・エターを重層的に、地域の核として、アットホームな場を、これまで「フレーム」として「こもり」まじり合いの場をつくっています。

Research・Action・Presentationを行うラボスペースとして、美流渡小・中学校も機能させます。

いついつても「誰か」が「何か」新しいことを「行っている」拠点とし、使いたかから「今後の校舎利用の道」も探る!

Research

(地域の記憶を掘りあぐ)



あなたのルーツを
おいえてほしい!
住民に土地の記憶と
自分の思いを語り
ながら、土地を
つくりだす。



人ロゼン時代の
土地をつくりだす
セブリングするなかから
炭鉱町で学んだ時代の
共有するリソースとして。

昔をたどることで
今が見えてくる

Action

(ドキドキ、ワクワクする場をつくる)

旧校舎や体育倉庫「グラウンド」で
アート・スポーツ・音楽などのイベントを企画した
ワークショップやイベントを企画。
一週間のものではなく、リサーチにもつづいて「持続可能な」
しくみづくりの実験とは。

Presentation

リサーチ&アクションもアーカイブし、冊子としてまとめる。
何を考え、どう働き、何かあったか。地域住民と
共有するリソースとして。
また、ネットを経過で発信し、各地の取組むとの連携も。

島)(13日のみ)、プロデュース・広報の技法(中野)(20日のみ)等のミニ講座+美流渡スクールプロジェクト

「森の学校ミルト」をテーマにグループ・ディスカッション・企画案の作成をします。13日は主にアイデア・フラッシュ、20日はプロジェクト企画案作成の内容ですが、1回だけの参加も歓迎します。

◆プロジェクト実践 以下の2コースを実施します。

★アーティストファミリーレジデンス（アーカイブコース）

参加アーティスト：伊吹拓（画家）、伊吹尚子（陶芸家）、
伊吹音（小学4年生）

テーマ：アーティストファミリーによる作品制作プロセスの
制作記録（アーカイブ）作成

定員：市民・学生 20人

スケジュール等：アーティスト滞在制作（7月25日～8月5日→上幌地区集会所、8月6日～12日→まなみーる展示室）の期間中、制作プロセス及び展示風景を撮影（映像・写真）、アーティストや展示来場者へのインタビューを実施。学生と共同しSNS等で発信する等の作業を進めながら、アーカイブを作成します。取材・撮影のスケジュールは、コース内で話し合って決定しますので、随時都合の良い日程でご参加いただけます。

★森の学校ミルトで遊ぼう（イベントコース）

テーマ：廃校を活用した地域密着型アート・スポーツプロジェクトの企画・進行

定員：市民・学生 20人

イベント名：森の学校ミルトをつくろう

スケジュール等：本番は7月27日（土）、今年3月に廃校となった旧美流渡中体育館で実施します。美流渡地域ですでに展開されている各種地元プロジェクトと連携しながら、学生と共同しイベントの企画・進行を体験していただきます。イベント事前準備のスケジュール等（7月中旬スタート）は、コース内で話し合って決定しますので、無理のない範囲でご参加いただけます。イベント終了後に簡単なレポートを提出していただきます。

※両コースとも、期間中は岩見沢駅から会場までのシャトルバスを運行します。

4. 受講対象者：アートマネジメント、アートによる地域活性化等に興味をお持ちの方

5. 受講料：無料

6. 講師陣

事業責任者・主任講師：宇田川 耕一（北海道教育大学岩見沢校 芸術・スポーツビジネス専攻 教授）

ゲスト講師：来嶋 路子（森の出版社ミチクル代表・本学非常勤講師・元美術出版社）、中野 聖（アーティスト創生プランナー・元UHBプロデューサー）、前島 治基（税理士法人ノースブレイン代表社員・本学非常勤講師）

★受講申込みは下記の4つの中から番号でお選び下さい。組み合わせは自由で、1つから最大4つまでご参加いただけます。

- ①連続ワークショップ前編（7月13日）参加 ③プロジェクト実践アーカイブコース参加
②連続ワークショップ後編（7月20日）参加 ④プロジェクト実践イベントコース参加

【申込方法】氏名、連絡先（メールアドレス、電話番号）、ご希望の講座番号を明記し、下記（宇田川）まで電子メールでお申込み下さい。E-mail: udagawa.koichi@i.hokkyodai.ac.jp

【申込締切】2019年 7月10日（水）17:00 先着順で定員に達し次第終了

【お問い合わせ先】

宇田川 耕一 北海道教育大学 岩見沢校芸術・スポーツビジネス専攻 アートマネジメント音楽研究室
〒068-8642 岩見沢市緑が丘2-34 Phone/Fax: 0126-32-0259（直通） 携帯 090-9671-0565（宇田川）

